

## 彙 報

会 長 庄垣内 正 弘

### 平成 15 年度第 2 回常任委員会

日 時：2003 年 9 月 20 日（土）14:00～17:00

場 所：京都大学文学部小会議室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、金水 敏、  
熊本 裕、中川 裕、吉田 豊

オブザーバー：吉田和彦（編集委員長）、野田尚史（大会運営委員長）、大崎  
紀子（事務局長補佐代理）

#### [報告事項]

##### （1）各委員会からの報告

###### ・編集委員会

吉田和彦編集委員長から、『言語研究』第 124 号の 11 月刊行に向け編集作業が進行中であること、第 125 号の刊行に向けさらに積極的に論文を集めていく方針であることが報告された。

###### ・大会運営委員会

野田尚史委員長から、9 月 13 日（土）に大会運営委員会を開催したことが報告された。

##### （2）選挙管理委員の確定について

第 1 回委員会で行われた選挙管理委員の選挙について、当日欠席の 3 名の当選者に受諾の可否を確認し、選挙の結果通り次の 8 名の選挙管理委員が確定した。影山太郎、金水 敏、窪園晴夫、郡司隆男、田野村忠温、野田尚史、山梨正明、吉田 豊（50 音順）。

##### （3）大学評価委員会評価員の選考結果通知について

大学評価・学位授与機構より推薦の依頼のあった大学評価委員会評価員について、前常任委員会で検討し、分野別教育評価「人文学系」1 名、同研究評価 2 名の候補を推薦していたが、うち 1 名が研究評価専門委員会の評価員に選考された。

[審議事項]

- (1) 第127回大会(平成15年度秋季大会)について  
野田大会運営委員長より研究発表応募件数62件のうち38件を採択(採択率約61%)し、ワークショップ応募1件を採択したこと、「危機言語」小委員会によるポスターセッションを行うことなどについて説明があり、了承された。
- (2) 第128回大会(平成16年度春季大会)について  
2004年6月19日(土)、20日(日)に東京学芸大学で開催する旨提案があり、了承された。大会実行委員長は杉田洋氏に依頼する。
- (3) 大会研究発表に関する規定の改定等について  
「研究発表に関する規定」を「口頭発表に関する規定」に改める改定案及び、「ポスター発表に関する規定」の新規定案が野田大会運営委員長から提案され、審議の上、了承された。また、上記規定の改定及び新設に伴う「ワークショップに関する規定」の改定の必要性についても議論された。
- (4) 日本学術会議語学文学研究連絡委員会委員、東洋学研究連絡委員会委員の推薦について  
推薦の依頼のあった上記委員候補について、語学文学研究連絡委員会委員候補者として早田輝洋氏、東洋学研究連絡委員会委員候補者として崎山理氏を推薦することを決めた。
- (5) 科学研究費の「時限付き分科細目」の新設要望について  
「危機言語」小委員会より科学研究費補助金の「時限付き分科細目」に「危機言語・少数言語研究」を加えるよう言語学会として学術会議に要望してほしいという要請があった件について審議の上、了承された。
- (6) 学会ホームページについて  
学会ホームページの充実について議論され、大会発表要旨をホームページに掲載するよう、小委員会に依頼することになった。また、『言語研究』目次の遡及入力に一層努力してもらうよう依頼することになった。
- (7) 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)について  
国立情報学研究所より国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC/JAPAN)に参加する英文論文誌公募の通知があったが、『言語研究』は和文誌であり、当面は応募しないことになった。
- (8) 「危機言語」小委員会のメンバーの追加について  
「危機言語」小委員会より、梅田博之、白井聡子、千葉庄寿、渡辺己の4氏を委員に加えたいという希望があり、11月の委員会に提案することになった。

## (9) 『予稿集』の定価改定について

『予稿集』の定価を現行の1,500円から2,000円に値上げすることが提案され、学会予算が逼迫傾向にあること、また、今後大会運営の費用が増加する可能性のあることなどから、2,000円に値上げするという改定案が了承された。

**平成15年度第2回委員会**

日 時：2003年11月22日（土）10:00～12:45

場 所：大阪市立大学（杉本キャンパス）法学部棟11階711C教室

出席者：庄垣内正弘（会長）、佐藤昭裕（事務局長）、上山あゆみ、上野善道、  
大津由紀雄、荻野綱男、生越直樹、加藤重広、金水 敏、久保智之、  
窪園晴夫、栗林 均、郡司隆男、斎藤 衛、酒井 弘、坂本 勉、  
坂本比奈子、崎山 理、清水克正、杉戸清樹、高永 茂、玉岡賀津雄、  
田村すず子、角田太作、津曲敏郎、長嶋善郎、西光義弘、野田尚史、  
林 徹、原口庄輔、樋口康一、日比谷潤子、松森晶子、宮岡伯人、藪  
司郎、吉田和彦、吉田 豊（以上37名）

委任状：28名

オブザーバー：井上和子（顧問）、梶 茂樹（会計監査委員）、松村一登（会計  
監査委員）、森 若葉（事務局長補佐）

議事に先立ち、大会実行委員長の大阪市立大学小林標氏より挨拶があった。

## [報告事項]

## (1) 選挙管理委員の決定について

第1回委員会で行われた選挙管理委員の選挙について、当日欠席の3氏も含め、選挙結果通り8名の委員が確定した。

## (2) 大学評価委員会評価員の選考結果通知について

大学評価・学位授与機構より大学評価委員会評価員の推薦依頼があり、前常任委員会から分野別教育評価「人文学系」1名、同研究評価2名の候補を推薦していたが、うち1名が研究評価専門委員会の評価員に選考された。

## (3) 9月20日に行われた第2回常任委員会について報告が行われた。

## (4) 国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC/JAPAN）について

国立情報学研究所より国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC/JAPAN）に参加する英文論文誌公募の通知があり、常任委員会で審議したが、『言語研究』は英文誌ではないので、当面は参加しないことに

決定した。

(5) 各種委員会の活動報告

・編集委員会（吉田和彦委員長）

第124号の編集作業は終了し11月中に刊行の見通しであること、第125号は現在編集途中であり3月末日に予定通り刊行の予定であること、また特別編集委員として新たにJohn Whitman氏（コーネル大学）に加わって貰うことが報告された。

・大会運営委員会（野田尚史委員長）

第127回大会では口頭発表応募件数62件中38件を採択したこと（採択率61%）、また「危機言語」小委員会によるポスターセッションを行うことになったことが報告された。

・「危機言語」小委員会（宮岡伯人委員長）

新たに委員として4名を加えたいこと、「危機言語」小委員会として今後も大会でのワークショップへの応募やポスターセッションの企画を続けていきたいこと、2004年1月23日に日本言語学会主催で危機言語に関するシンポジウムを行いたいことが報告された。

・夏期講座検討小委員会（荻野綱男委員長）

第4回夏期講座の日程（2004年8月24日（火）～29日（日））と会場（キャンパスプラザ京都、宿泊はコープイン京都）が確定し、内容の詳細、講師、時間割もほぼ決まったことが報告された。また、夏期講座はこれまですでに3回開催され定着していると考えられるので、小委員会の名称から「検討」の文字を外し、今後は夏期講座を実施するための委員会として位置づけて欲しいという要望が述べられた。これについては後の議題で扱うこととなった。

・ホームページ小委員会（松村一登委員長）

10月初めにホームページをリニューアルしたことが報告された。

(6) その他

・本年度第1回委員会で第17回国際言語学者会議の日本言語学会代表に選出された長嶋善郎氏が、都合で同会議に出席できなくなったため、『言語研究』掲載の同会議報告の執筆を、前回のパリ会議に言語学会代表として出席し、その後1991-2002年のCIPL連絡委員を務めた下宮忠雄氏に依頼した。なおこの会議でCIPLの2003-2008年度Executive Committeeのメンバーに下宮氏が選ばれた。

・青山学院大学で開かれた第126回大会で『予稿集』を650部刷ったが、足りなくなったため、大会後100部を増刷して希望者に郵送した。

・第129回（平成16年度秋季大会）の会場は現在のところ未定である。

- ・会員の荻野綱男氏より、都立4大学の統廃合計画に関連して東京都議会に請願書を提出するための署名活動を行っているが、言語学会の会場でも署名を集めたいという希望が出され、常任委員会で検討の結果、個人的な活動として認めることとした。

#### [審議事項]

- (1) 第128回大会(平成16年度春季大会)について  
2004年6月19日(土)、20日(日)の両日に東京学芸大学で開催することが決定した。大会実行委員長は杉田洋氏である。
- (2) 「研究発表に関する規定」の改定について  
野田大会運営委員長より、「研究発表に関する規定」の改定案が示され、名称を「口頭発表に関する規定」に改めること、共同発表の場合は全員が会員でなければならないという条件を緩和し、筆頭発表者のみ会員であればよいとすること、「口頭発表」と「ポスター発表」の両方に同一の研究を申し込むことはできないこと、発表時の使用言語を明記して貰うこと等の点について説明があり、審議の上決定された[別記1参照]。
- (3) 「ワークショップに関する規定」の改定について  
野田尚史大会運営委員長から「口頭発表に関する規定」に合わせて若干の字句変更を行うことが提案され、審議の上決定した[別記2参照]。
- (4) 「ポスター発表に関する規定」について  
野田尚史委員長から「ポスター発表に関する規定(案)」が提案され、口頭発表に準じて筆頭発表者のみが会員であればよいこと、機器の使用は可とするが発表者の責任で準備すること、発表時間は2時間程度、ポスターサイズはB1版2枚程度とするが、会場校の都合により変更がありうること等が説明され、審議の上決定された[別記3参照]。  
また以上3つの規定における使用言語の明記の項目に関連して、発表のタイトルをプログラム等に英語で併記して欲しいという要望があり、審議されたが、プログラムに併記する場合、ホームページに掲載する場合とも費用その他の問題があり、継続審議となった。  
また、会長から諸規定の「委員会決定の日付」「修正案可決の日付」を過去に遡って西暦に統一することが提案され、引き続いて検討することとなった。
- (5) 日本学術会議語学文学研究連絡委員会委員、東洋学術研究連絡委員会委員の推薦について  
常任委員会での審議にもとづき、5月に行われた同会議の第19期会員選挙で言語学会から推薦された候補者を各研連の委員として推薦すること

ととし、語学文学研究連絡委員会委員候補者として早田輝洋氏、東洋学  
研究連絡委員会委員候補者として崎山理氏を推薦したことが報告され、  
了承された。なお両氏とも委員に選出された。

- (6) 2004年度夏期講座の予算案について  
荻野綱男委員長より2004年度夏期講座の予算案が提案された。参加者  
250名、200名、160名の場合を想定し、それぞれで収入570万円に対  
して支出4,751,720円、収入450万円に対して支出4,596,720円、収入  
360万円に対して支出4,282,160円が見込まれるという説明があり、審  
議の上了承された。
- (7) 科学研究費の「時限付き分科細目」の新設要望について  
「危機言語」小委員会より科学研究費補助金の「時限付き分科細目」に  
「危機言語・少数言語研究」を加えるよう言語学会として学術会議に要  
望するよう要請があった。常任委員会で審議し、9月11日付で、学術  
会議第1部部長の蓮見音彦氏に言語学会からの要請文と趣意説明書を送  
付して同部での審議を依頼した。この要望は、その後「開発に伴う地域  
伝統・危機言語・少数民族言語の保護と変容に関する研究」という内容  
を含む、より大きな「社会開発と文化」という分野名のもとに第1部の  
審議を通り、同会議の運営委員会に提出されることになった。以上の経  
過について報告があり、了承された。
- (8) 「危機言語」小委員会のメンバーの追加について  
「危機言語」小委員会より、梅田博之、白井聡子、千葉庄寿、渡辺己の  
4氏を委員に加えたいという提案があり、了承された。
- (9) 危機言語に関するシンポジウムの開催について  
宮岡伯人「危機言語」小委員会委員長より、2004年1月23日に学士会  
館で危機言語についてのシンポジウムを言語学会主催で開催したい旨の  
提案があり、プログラム、予算案(支出785,000円)についての説明が  
あったのち、審議の上、了承された。
- (10) 韻律に関する国際会議 Speech Prosody 2004 に対する協賛について  
10月10日付で、2004年3月に奈良で行われる「韻律に関する国際会  
議」(Speech Prosody 2004)の組織委員長広瀬啓吉氏より、言語学会に  
対してこの会議の協賛団体になるよう要請があった。委員会に間に合わ  
ないため、常任委員会で審議した結果、協賛団体の会員には登録料の割  
引があるという条件を考え受け入れることとした。この経過について報  
告があり、了承された。
- (11) 夏期講座検討小委員会の名称を夏期講座小委員会に変更することにつ  
いて

夏期講座検討小委員会の荻野委員長より、夏期講座はこれまですでに3回開かれ、4回目も準備中であり、検討の段階は終わったと考えられるので、委員会の名称から「検討」の語をはずし、今後は同委員会を夏期講座を実施していくための小委員会と位置づけたいという提案があり、審議の上、了承された。

(12) その他

- 『予稿集』の定価改定について

『予稿集』の定価を現行の1,500円から2,000円にすることが提案され、審議の上、了承された。

- 都立4大学の統廃合問題についての報告と審議

学術会議会員の井上和子氏より、都立4大学の統廃合計画に関連して、日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本英語学会の3学会が連名で東京都知事宛に要望書を送り、8月に発表された都立の新大学構想を見直すよう求めると同時に、学術会議に対してもこの問題を取り上げるよう要望してきたことが報告された。言語学会もこれらの学会と歩調を合わせるべきであるという意見が出、都立大学に所属する委員に都立4大学の統廃合計画についてこれまでの経緯と現在の状況を説明して貰った後、言語学会としての対応を考えた。審議の結果、会長に対応を一任すること、その際常任委員会で審議をつくすことが決められ、会長からは出席の委員に対してメールでこの件に関する意見を会長宛に送るよう要請があった。

その後この件について、事務局より11月28日付で、当日出席の委員、会計監査委員、顧問を含む委員会の全メンバーに対して3学会の都知事宛要望書を参考資料として添えたいえ改めて意見を求める書簡を送り、メールで26通、封書で3通の回答を得た（うちメール1通、封書1通は常任委員会での審議終了後に到着）。これらの回答に基づき、常任委員会で審議した結果、言語学会として学術会議に要望書を送ることとし、12月22日付で同会議会長宛にこれを送付した。[別記4参照]。

〔別記1〕研究発表に関する規定の改定

(旧)	(新)
<p>規定の名称「研究発表に関する規定」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>研究発表</u>の申し込みは会員に限る。</li> <li>2. 他学会で発表したもの及び応募中のものを本学会に二重に申し込むことはできない。</li> <li>4. <u>研究発表希望者</u>は、〔以下省略〕</li> <li>5. 発表申込書はA4用紙1枚に、発表題目、氏名（<u>ふりがな</u>）、住所、所属機関、職名または身分、連絡先電話番号（<u>及びe-mail、ファックス番号</u>）を書く。〔以下省略〕</li> <li>10. <u>研究発表採択者</u>には〔以下省略〕</li> <li>11. <u>研究発表者</u>は、〔以下省略〕</li> <li>12. <u>研究発表者</u>は、〔以下省略〕</li> </ol>	<p>規定の名称「口頭発表に関する規定」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>口頭発表</u>の申し込みは会員に限る。<u>ただし、共同発表の場合は筆頭発表者が会員であればよい。</u></li> <li>2. 他学会で発表したもの及び応募中のものを本学会に二重に申し込むことはできない。<u>また、本学会の口頭発表とポスター発表に同一のものを同時に申し込むこともできない。</u></li> <li>4. <u>口頭発表希望者</u>は、〔以下省略〕</li> <li>5. 発表申込書はA4用紙1枚に、<u>発表形態（「口頭発表」と明記）、発表題目、氏名、氏名の読みがな、住所、所属機関、職名または身分、連絡先電話番号、連絡先e-mailアドレス、連絡先ファックス番号、使用言語（日本語または英語）</u>を書く。〔以下省略〕</li> <li>10. <u>口頭発表採択者</u>には〔以下省略〕</li> <li>11. <u>口頭発表者</u>は、〔以下省略〕</li> <li>12. <u>口頭発表者</u>は、〔以下省略〕</li> </ol>

（平成15年11月22日修正案可決）

〔別記2〕ワークショップに関する規定の改定

(旧)	(新)
<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 企画申込書はA4用紙1枚に次の事項を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークショップ題目</li> <li>• 企画者の氏名（<u>ふりがな</u>）、住所、</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 企画申込書はA4用紙1枚に次の事項を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>発表形態（「ワークショップ」と明記）</u></li> <li>• ワークショップ題目</li> <li>• 企画者の氏名、<u>氏名の読みがな、</u></li> </ul> </li> </ol>

- |  |  |
|--|--|
| <p>所属機関，職名または身分，連絡先電話番号（及びe-mail，ファックス番号）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者の氏名（ふりがな），所属機関，職名または身分</li> <li>・発表者の氏名（ふりがな），所属機関，職名または身分，発表題目</li> <li>・機器の使用希望の有無</li> </ul> | <p>住所，所属機関，職名または身分，連絡先電話番号，連絡先e-mailアドレス，連絡先ファックス番号</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者の氏名，氏名の読みがな，所属機関，職名または身分，使用言語</li> <li>・発表者の氏名，氏名の読みがな，所属機関，職名または身分，発表題目，使用言語</li> <li>・機器の使用希望の有無</li> </ul> |
|--|--|

（平成 15 年 11 月 22 日修正案可決）

### 【別記 3】ポスター発表に関する規定の制定

#### ポスター発表に関する規定

1. ポスター発表の申し込みは会員に限る。ただし，共同発表の場合は筆頭発表者が会員であればよい。
2. 他学会で発表したもの及び応募中のものを本学会に二重に申し込むことはできない。また，本学会の口頭発表とポスター発表に同一のものを同時に申し込むこともできない。
3. 使用言語は日本語または英語とする。
4. ポスター発表希望者は，発表申込書と発表要旨を本学会事務局に郵送する。申し込み締め切りは，春季大会は3月31日，秋季大会は8月31日（いずれも必着）とする。
5. 発表申込書はA4用紙1枚に，発表形態（「ポスター発表」と明記），発表題目，氏名，氏名の読みがな，住所，所属機関，職名または身分，連絡先電話番号，連絡先e-mailアドレス，連絡先ファックス番号，使用言語（日本語または英語）を書く。なお，発表に際して機器の使用を希望する場合は，その旨も明記する。機器はすべて発表者が持ち込むものとする。ただし，会場の都合により機器が使用できない場合もある。
6. 発表要旨はA4用紙1枚に書く。和文・英文とも10ポイント以上のフォントを用いる。冒頭に発表題目を記すが，氏名や所属等は書かない。発表要旨は6部（コピー可）提出する。
7. 発表要旨は以下の点に留意して書く。題目は内容を明快に反映するものとし，できるだけ簡潔にする。要旨の内容には，問題の所在，研究の独自性，

重要性、主張・論点を十分に反映させ、必要に応じ、具体的な実例や資料も示す。特殊な文字や略語は可能な限り避ける。

8. ポスター発表は2時間程度とする。ポスターのサイズはB1判（79 cm × 109 cm）2枚分以内とする。ただし、会場の都合によりポスターのサイズが小さくなる場合もある。
9. 採否は大会運営委員会が決定する。
10. ポスター発表採択者には本学会事務局から発表日時を予め通知する。
11. ポスター発表者は、事務局から指定された期日までに予稿集原稿と『言語研究』掲載用の発表要旨を提出する。予稿集原稿は、別項「予稿集原稿作成要領」に従って作成する。『言語研究』掲載用の発表要旨は、和文は400字以内、英文は120語以内とする。特殊な文字は可能な限り避ける。
12. ポスター発表者は、当日、各自の発表の直前の休憩時間までに会場受付に到着の旨連絡する。

（平成15年11月22日委員会決定）

#### 〔別記4〕都立四大学の統廃合問題と人文学軽視についての学術会議宛要望書

#### 要 望 書

2003年12月22日

日本学術会議

会長 黒川 清 殿

#### 都立四大学の統廃合問題と人文学軽視について

本年8月1日に東京都の大学管理本部より、東京都立大学、同科学技術大学、同保健科学大学、同短期大学の四大学を廃止し平成17年度に新大学を設立するという「都立の新しい大学の構想」が発表されました。

この構想では、新大学の都市教養学部には社会学コース、心理・教育学コース、国際文化コースからなる人文・社会系が設けられることになっています。しかし、その枠組みと教員の配置を考えるなら、現在の都立大学人文学部で行われている哲学、史学、文学といった人文学の核となる諸分野の研究と教育は、明らかに縮小されることとなります。そしてこれまで文学科の各専攻で行われてきた諸言語の研究と教育も、大幅に縮小されることが予想されます。

現在の日本社会の趨勢を考えると、社会学や心理学といった分野に多くの学生が集まることは事実であり、これらの分野に重点をおく構想が一般社会の要求に応えようとするものであることも一面では理解できます。しかし、一国の文化とその文化に基礎をおく社会の健全な発展のためには、時流に流されることなく学問の独立を守り、基礎的な分野の研究を継続して進めていくことが必要です。

文学と哲学は、洋の東西を問わず古代より、学問の根幹に位置するものとして重視されてきました。そしてこれらの分野の根底にあるのが言語の研究です。このような基礎的な学問分野を軽視した大学の「改革」が、長期的に見て、日本の文化・学術の発展に益するものであるとは到底考えられません。そして、今回の構想のうちにある人文学軽視の発想は、単に東京都立大学の人文学部のみに係わる問題ではありません。日本言語学会は、今後、目先の効果や単純な経済的効率を重視した同種の構想が「大学改革」の名のもとに全国の他の大学に波及していくことを危惧するものです。

日本言語学会は以上の考えに立ち、我国の科学、学術に関する重要事項を審議し、日本の学術行政の今後を方向付けていくことのできる機関として極めて重要な責務を負っておられる貴会議に、次の二つの点について要望します。

- 1) 都立四大学の統廃合計画と新大学の構想について貴会議の立場から検討し、その問題点を明らかにして意見表明を行い、文部科学省に提言すること。
- 2) 今後も人文学を軽視する東京都立大学と同様の組織改編が全国の他の大学に波及しないよう、十分な注意を払っていくこと。

この要望は、本年11月22日に開催された日本言語学会第127回大会に先立つ委員会において議題となり、以後今日まで同委員会ならびに常任委員会において慎重かつ十分に議論を尽くしてきた結果です。よろしくご考慮のほどお願いいたします。

日本言語学会  
会長 庄垣内正弘

#### 平成15年度第2回「危機言語」小委員会

日 時：2003年11月21日（金）14:30～17:30

場 所：大阪学院大学17号館1階A会議室

出席者：遠藤 史，梶 茂樹，金子 亨，呉人 恵，坂本比奈子，佐々木冠，  
 笹間史子，白井聡子，田村すゞ子，角田太作，中山俊秀，稗田 乃，  
 宮岡伯人，村崎恭子，渡辺 己

[議事と報告]

(1) 新委員の紹介

梅田博之氏（麗澤大学），白井聡子氏（京都大学），千葉庄寿氏（麗澤大学），渡辺己氏（香川大学）の4名が新委員として常任委員会で承認され，翌22日開催予定の委員会で正式決定の見込みであることが報告された。

(2) 「危機言語」シンポジウムについて

2004年1月開催予定のシンポジウム『「危機言語」の国際社会的状況一言語維持のための戦略―』（言語学会主催）のプログラム内容，予算，準備作業について具体的な検討がおこなわれた。

(3) 平成16年度文部科学省「特別推進研究」「研究成果公開促進費」について

「危機言語」小委員会メンバーを中心メンバーとした，平成16年度文部科学省「特別推進研究」ならびに「研究成果公開促進費」への申請をおこなったことについて，宮岡伯人委員長より報告があった。

(4) 時限付き細目について

科学研究費補助金（基盤研究（C））の「時限付き分科細目」として「危機言語・少数言語研究」を設定するよう言語学会から学会会議に要望したが，他分野からの要望と合わせた細目「社会開発と文化」（平成17年度より）という形で学会会議第1部を通り，同会議の運営委員会で審議されることになった旨，宮岡伯人委員長より報告があった。

(5) ホームページについて

「危機言語」小委員会のホームページの更新について，特にリンク先の充実，英語版の作成等に向けての検討がなされた。

(6) アンケートについて

佐々木冠委員によりおこなわれた『言語研究』に関するアンケートについての見直しと今後の方針について討議された。

(7) ワークショップについて

来年度以降のワークショップをどうおこなうかについて意見交換がなされた。

(8) ポスターセッション

坂本比奈子委員より，ポスターセッションの準備状況についての報告が

あった。また、当日の展示、ビラ配り等の準備についての打ち合わせがおこなわれた。

- (9) 今後の活動における役割分担  
 前回の小委員会で、宮岡新委員長から委員会活動の基本的方向として提案された柱にしたがって、各委員の役割分担が以下のとおり決められた。なお、このうち5)は今回新たに加えられた活動である。
- 1) 特定領域研究 (ELPR) 以降の危機言語研究推進の母体としての活動：宮岡，梅田，梶，笹間
  - 2) 日本言語学会内に向けての啓蒙活動：坂本（総括）
    - ・ワークショップ：奥田
    - ・ポスターセッション：中山
    - ・『言語研究』への働きかけ：村崎
    - ・アンケート：佐々木
    - ・夏期言語講座：田村
    - ・ホームページ：千葉，白井
  - 3) 日本言語学会外ならびに一般に向けての啓蒙活動：金子（総括）
    - ・シンポジウム・講演会の開催：奥田，金子，風間
  - 4) 国際的・学際的交流活動：角田，稗田
  - 5) 広報活動：遠藤，渡辺
- (10) 次回第3回「危機言語」小委員会は2004年6月18日（金）に開催することが同意された（ただし、後日、変更があり、第3回「危機言語」小委員会は上記シンポジウム「『危機言語』の国際社会的状況一言語維持のための戦略」の翌日1月24日（土）に開かれることが決まった）。

#### 平成15年度第2回夏期講座検討小委員会

日 時：2003年11月21日（金）14:00～18:00

場 所：大学コンソーシアム京都内 キャンパスプラザ京都第4講義室

出席者：西光義弘，荻野綱男，堀川智也，風間伸次郎

#### 〔議題〕

- (1) 検討小委員会の組織，土曜日の委員会での審議事項  
 「検討」の時期は過ぎたので，言語学会の中での位置づけを見直したい。
- (2) 夏期講座2004の開催の詳細決定  
 予算案の検討（参加費，その他大枠の決定）  
 スケジュール，会場設営，ポスターや雑誌での案内方法，ホームページ

での受付方法，機器の確認，会場の視察

(3) 実行組織の検討

実行委員は少数にとどめる。宿泊関係を大阪外大生協に外注することで，アルバイトも少数で間に合う。

(4) 「危機言語」小委員会との連携

2006年の夏期講座から，フィールド言語学の講師は「危機言語」小委員会からの推薦を重視して決定する。

## 第 127 回大会

期 日 2003 年 11 月 22 日 (土)~23 日 (日)

会 場 大阪市立大学 (杉本キャンパス)

## 第 1 日 (11 月 22 日)

開会挨拶

開会の辞

会 長

開催校挨拶

中村 圭爾

シンポジウム 「味覚の言語学」

司会 小林 標

パネリスト

瀬戸 賢一「味のことばとことばの味」

楠見 孝「味覚のメタファー表現への認知的アプローチ」

山本 隆「おいしさの科学とおいしさの表出」

小森 道彦「味を表す視覚・聴覚の共感覚表現」

コメンテーター

山口 治彦「味のことばに関する疑問」

## 第 2 日 (11 月 23 日)

研究発表 午前 10 時から

。A 会場

司会 酒井 弘

(A 1) 10:00~ 日本語かき混ぜ文の読み時間と  
プライミング効果

柴田 寛

鈴木 美穂

金 情 浩

行 場 次 朗

小 泉 政 利

(A 2) 10:35~ 日本語三項動詞文の基本語順と読み時間

小 泉 政 利

玉岡 賀津雄

(A 3) 11:10~ 空主語文の処理における終助詞「よ・ね」  
の機能に関して

坂 本 勉

玉岡 賀津雄

松 本 充 右

司会 小泉 政利

(A 4) 13:00~ 「V-te 形 /V-tsutsu 形+助動詞アル」の構造

副 島 健 作

(A 5) 13:35~ 疑問詞と「かどうか」の共起について

森 貞

司会 上山あゆみ

(A 6) 14:25~ 敬語文の構造と軽動詞

Ivana Adrian

酒 井 弘

(A 7) 15:00~ 日本語の軽動詞構文とゼロ派生

黒 木 暁 人

## ◦ B 会場

- 司会 林 博司
- (B 1) 10:00～ ルーマニア語における直接目的語前置構文の統語構造 藤田 健
- (B 2) 10:35～ 上ソルブ語における動詞の項の再配置 笹原 健
- (B 3) 11:10～ 現代グルジア語の補文標識 *tu* 児島 康宏
- 司会 中井 精一
- (B 4) 13:00～ 方言談話における計量国語学的類型論 荒 則子
- (B 5) 13:35～ 岩手県遠野方言の非動的述語・否定の時間表現 高田 祥司
- 司会 渋谷 勝己
- (B 6) 14:25～ 西日本方言の補助動詞「おく」の、事態が望ましいことを表示する機能 山部 順治
- (B 7) 15:00～ 概言のムード形式「ようだ」「そうだ」「らしい」に対応する博多方言形式「ゴター」 坪内 佐智世

## ◦ C 会場

- 司会 三原 健一
- (C 1) 10:00～ Multiple Foci: A Study of English Cleft Sentences 鈴木 清香  
北尾 泰幸
- (C 2) 10:35～ A Descriptive Approach to Infinitival *to* as an Aspectual Affix 田川 憲二郎
- (C 3) 11:10～ Causative Psych Verbs as World-Creating Perceptive Predicates: A Hyperclause Analysis of Backward Binding 佐藤 陽介
- 司会 田端 敏幸
- (C 4) 13:00～ 逆接の音韻論と句構造 時崎 久夫
- (C 5) 13:35～ 英語における逆形成について 長野 明子
- 司会 池田 哲郎
- (C 6) 14:25～ モンゴル諸語の“particle”の自立性について 山越 康裕
- (C 7) 15:00～ ハンガリー語の無冠詞名詞句をともなう動詞の構造 江口 清子

## ◦ D 会場

- 司会 工藤真由美
- (D 1) 10:00～ シテイルの概念と意味解釈—語彙概念構造および有界性による分析— 上原 由美子

- (D 2) 10:35～ 「たて」構文の分析：述語のアスペクト 山田 昌史  
特性と event 構造からのアプローチ
- (D 3) 11:10～ 移動動詞、経路と事象構造 磯野 達也  
司会 生越 直樹
- (D 4) 13:00～ 日英語における「尺度隔たり」構文の 澤田 治  
多機能性について：意味地図的アプローチ
- (D 5) 13:35～ 状態変化事象における時間構造と尺度構造 浅野 真也  
司会 丹羽 哲也
- (D 6) 14:25～ 差異不定型トートロジーの解釈スキーマ 酒井 智宏
- (D 7) 15:00～ 日常言語における価値的否定性と 有光 奈美  
対象依存的否定性
- E 会場
- 司会 益岡 隆志
- (E 1) 10:00～ 英語の被害受身文と非対格性—機能的分析— 行田 勇
- (E 2) 10:35～ 述語等位接続構文と日本語の句構造 平田 一郎
- (E 3) 11:10～ 日本語に再帰構文は存在するか？ 三浦 秀松  
司会 森山 卓郎
- (E 4) 13:00～ 様態副詞の事象構造分析 坂本 浩
- (E 5) 13:35～ 名詞述語文「XはYだ」と数量詞 坂本 智香  
司会 定延 利之
- (E 6) 14:25～ 空間場所成分の目的語化表現 朴 貞姫  
一日朝中3言語の対照—
- (E 7) 15:00～ 現代韓国語の談話における 金 智賢  
「無助詞」の機能について
- F 会場
- 司会 立石 浩一
- (F 1) 10:00～ 英語の上昇下降調と下降調の相違 湯澤 伸夫  
～音調核音節を一音節移動させた場合～
- (F 2) 10:35～ クメール語の小辞 *phəən* —並立する情報を 森 奏子  
前提として生み出すトリガー—
- (F 3) 11:10～ The Polyfunctionality of the Subordinator Kaul Guy  
*əké* in Adioukrou Complex Constructions

ワークショップ 13:35～

◦ F 会場

アイヌ語現地調査の現状と可能性—「危機言語」調査の今後—

司会 中川 裕

アイヌ語現地調査の現状と到達点

奥田 統己

アイヌ文化における鳥類・魚類

加藤 陽一郎

—民俗語彙とその背景にある知識—

ポスターセッション 11:10～

◦ G 会場

「危機言語」への招待—その現状と研究の最前線—

「危機言語」小委員会

## ◇ 退 会

国内個人会員	14 名
在外個人会員	1 名



◇ 本誌は、独立行政法人日本学術振興会平成 15 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。